

第1問

5 10 15 20 25 30

5 兄弟での皇位継承から直系による安定的な継承に変化した。中下級貴族が能力によって重用されることがなくなり、太政官の中枢に上る家格が固定化された。格式や儀礼が整備され、前例に基づいた政治を政務能力を身につけた有力氏族が担った。天皇は政治を主導しなくなり、幼少でも務まるようになって、摂政が政務を代行した。

第2問

5 10 15 20 25 30

5 A地頭が新規に田地を拡大するなか、荘園領主は検注を通して土地の面積など現地を正確に把握し、適切な年貢額を定めようとした。B地頭請の契約で荘園領主への一定の年貢納入を条件に荘園管理を委ねられた地頭は、検注による荘園領主の現地干渉を排除したり、荘内の開発をより自由に進めるなどして、荘園の支配力を強めた。

第3問

5 10 15 20 25 30

5 A金銀の産出量減による収入減に、明暦の大火からの江戸復興や寺社造営を含む文治政治期の支出増が重なり、財政が悪化していた。B限られた財源で被害を防ぐため、生産力の高い地域の堤の補強に費用投下を集中させる一方、山村での土砂対策は自助努力に任せた。その結果、川の土砂除去が不十分となり、洪水の危険は続いた。

第4問

5 10 15 20 25 30

5 A華族令により、従来の公卿や諸侯などの華族に加え、維新の功労者や徳川宗家・国家に勲功のある者などに新たに爵位を与えた。これには将来の貴族院を構成する母体をつくるという意図があった。B護憲三派による憲政擁護運動が高まり、貴族院を基盤とする超然内閣が批判されるなか、衆議院選挙を戦う上で、当時の法令上、華族の戸主や貴族院議員のままでは衆議院議員になれなかったため。